

2012

明けましておめでとうございます



理事長 西田 良枝

今年は、多くの方が実に様々な想いや願いや決意をもって、新しい年を迎えることになったのではないかと思います。私たち「とも」もその中のひとりです。

去年の年頭は、「とも」は10周年を迎えることとなり、多くの皆様に支えていただいていた歴史を振り返るとともに、感謝の気持ちを胸に、次の10年に向かって行こうと張り切っているところでした。

そして、3月11日の大震災。液状化によって法人の拠点が一壊となり、すぐに避難。仮の場所で24時間365日の支援事業を続けるかたわら、悩みぬいた末、予定していた10周年記念の集いを行うことと決意し、「とも」の新たな映像を上映、念願だった「とも」の取り組みを記した本の出版も果たすことができました。

この苦しい時期を支えてくださったのは、利用者さんをはじめ、「とも」の理念に共感して下さる多くの、さまざまな立場の方々です。お一人おひとりに心から感謝申し上げます。

『「とも」が元に戻れるように…』と願ってくださっ

たのは、いつも顔を合わせている利用者さんや職員ばかりでなく、「とも」の前身である「浦安共に歩む会」のころから応援してくださっている方々や、全国の各地に暮らす方々、日常にかかわることがなくなっている方々なども多くいらっしゃいました。「とも」の理念や実践に心を通わせていてくださることが改めて伝わり、震災で受けた被害によって、普段は目に見えない強い絆を確認させていただくことができ、心強く、うれしい気持ちになりました。

このようにたくさんの方たちからのご寄付を含めたご支援をいただき、今年春には新しい拠点を再建できることになりました。本当にありがとうございます。

新たな拠点では、既存の事業に加え、障がいを持つ子どもを育てる親を支援することができる新たな事業をスタートさせる予定です。震災をきっかけに再発見したつながり、新たに生まれたつながりを大切に、「誰もが自分らしく生きることが地域づくり」に向かって邁進していく所存です！今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(社)中山馬主協会様から助成金をいただきました

社団法人中山馬主協会様から平成23年度地域貢献事業の助成金をいただきました。

船橋市や市川市と一緒に福祉関係5団体の中から選出していただき、12/10の目録贈呈式に出席しました。目録贈呈式では被災を受けた私たちに励まして下さる暖かい空気に感激するとともに、これからもがんばる決意を新たにしました。



後援会「ともと歩む会」から

あけましておめでとうございます。

クリスマス会に参加して頂いた皆様、ありがとうございました。150名の方に参加していただき、とても盛況な会になりました。アルパ奏者のYさんのすてきな演奏に心暖まる一時を過ごし、参加した方からの“楽しかった～”の声に、この一年も頑張ろうと決意を新たにしました。

平成23年は、本当にさまざまな災難にみまわれて厳しい一年になってしまいました。今は“とも”の活動拠点の再建も決まり、「災害転じて福を成す」、上向きな充実した気持ちで新年を迎えています。みんなで一緒に、頑張りましょう。



第1回



●●● 準備編 ●●●

私が働いている職場には勤続3年経つと海外研修に行ける制度があります。私も今年で4年目。海外研修の権利を得たので、小さいころに家族で行ったことがあり楽しい思い出の詰まったハワイにまた行きたいと思っていました。

同期のHさんと海外研修の話をしたときに「ハワイに行きたいんだ」と伝えたら、すぐに「一緒に行く」と言ってくれました。もう一人の同期のTさんにも一緒に行こうと話したのですが、別の友達と行くつもりとのこと。でも、最終的には一緒に行くことになりました。あとから理由を聞くと、私が入院したことがあり、苦しむ私を見ているのが嫌で一緒に行こうと決めてくれたみたいです。同じく研修対象の先輩であるHYさんも私がハワイに行くことをとても心配してくれ、一緒に行くと言ってくれました。普段から私の介助をしてきている3人が一緒に行ってくれることはとても心強かったです。友達でもある同僚と



ハワイで着る服のコーディネート
ばっちりお洒落して楽しめます♥

友達でもある同僚と

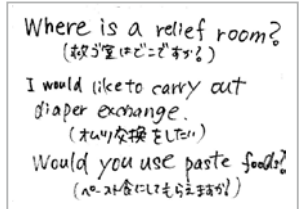
江里さん Profile

22歳。寝かせておくと寝たきりになってしまう重度心身障がいがある。自分の身体に合わせて作成したリクライニングとチルト機能が付いた車いすを通常は使用しているが、飛行機や車を使っていく旅行などにはバケット式の車椅子を使用。吸引器、酸素飽和度モニタ、バイパップ（人工呼吸器）、吸入器、買ろうのグッズ（シリンジやカテーテル、流動食）など、どうしても持っていかなければならない機器は数多い。

性格は活動的で好奇心旺盛。お茶目。日本の47都道府県めぐりを制覇し、その体験を近々ホームページで公開する予定。今回は47都道府県旅行の発展的活動として海外旅行に挑戦。

行けることになり、とても嬉しかったです。

みんなでハワイのことを話すのはとても楽しく、何をするか計画をたてる時に「絶対エビ食べよう！」「やっぱりフラダンスは外せないよね」「買い物はどこにいかうか〜」なんて話していると自分のテンションも上がってくるし、みんなも楽しそうでワクワクしました。みんなでプールに入る。みんなで部屋飲みをする。みんなで買い物に行く。“みんなで”が嬉しかったし、友達と一緒に何かするドキドキ感



英語の質問カード

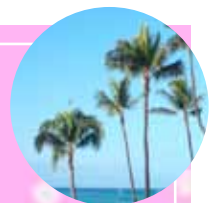
はどんどん膨らんでいきました。ただ、私は言葉が話せないし、同期2人は英語を話せそうにないし、地図の見方も分からないみたいで「大丈夫？」とHYさんと2人で不安になりました。私が外出するときには救護室やおむつ交換ができるトイレ、食事をする時はペースト食にしてもらうことが必要なので、他人とのコミュニケーションが不可欠になります。でも、私よりも海外経験のないみんなの方が不安だったみたい。ここは私がリードしなくちゃ！と思い、英語の質問カードを作り、いざという時は自分で持って見せることにしました。

全てが順調だったわけではありません。ハワイ行くことを相談した主治医や療育の先生は人によって意見がバラバラで、「行ける時に行った方がいい」とおっしゃる方もいれば「本当に行くの？」と驚いたり、「う〜〜ん」とはっきり答えてくださらない先生もいらっ

Staff Column

正直に言うと、私自身、江里さんと一緒にハワイに行くとは思っていませんでした。でも江里さんとハワイに行って貴重な体験が出来ました。ハワイに行くまでにパスポートの申請やビザ取得などやることがいろいろとあり、準備段階から大変なこともありました。ハワイの本を見たり江里さんとスタッフみんなでハワイのスケジュールを決めたりするのは楽しかったです。

出発当日は江里さんのケアを終え、「また空港でね」と言って別れて自宅に戻りましたが、全く実感がわかず、「今日日本に行くんだよなあ」と不思議な気持ちになりました。楽しみな部分いつもの旅行ケアとは違う海外での旅行ケアの不安があり、心臓あたりがモヤモヤしていましたが、空港でみんなに会うと、いつの間にかモヤモヤはなくなっていました。 TK



しゃいました。それでも、「できる時にやる」「行きたい」という強い気持ちがあったし、何よりみんなで行くチャンスが大事にしたかったのです。

体調を万全にするために予防注射をし、人がたくさんいる場所に行くのを避け、排痰をスムーズにするためにストレッチを多めに行うという体調管理も行いました。出発前の健康診断をクリアするために、みんなががんばってくれているのが分かっていたから私もがんばりました。酸素モニターを見る目にも力が入りました。

他にも車椅子をチェックしたり、ケアに必要な大量の荷物を選別して送ったり、足りないものを買足したりなどの準備を数か月前から行いました。ホテルや航空会社との交渉も欠かせません。



そこはママがやってくれたけど、相当大変だったと思います。

そしてやっと念願のハワイに出発するのですが、飛行機で大波乱が！・・・それはまた次回の通信でお伝えします。

この旅行記は平成23年10月末～11月に行ったハワイ旅行を元にしてあります。障がいを持った人の体験や感じたことを連載でお伝えします。内容については本人や介助者等に丹念に聞き取りをして代筆しています。

How to パスポート取得と海外保険

パスポート取得

【署名】パスポートの署名は直筆が原則ですが、署名できない場合は代筆でも大丈夫です。

【写真】背景に車椅子が映るとダメなので、お店で撮ることができませんでした。

背景は必ず白や青でないといけないため、白いシーツの上に寝転がって撮影しました。

海外旅行保険

30日未満の旅行であれば、問題なく海外保険に入れます。

ともの今日

地域活動支援センターとも



～地域活動支援センターともの実践～

地域活動支援センターとも（以下「地活」と表記）が「障がいがあってもなくても、誰もが自分の持つ力を発揮し自分らしく暮らせる地域づくり」を実践してきて、早3年半が過ぎました。今年はその実践を通し、少しずつではありますが利用者さん・地域の方、それぞれの変化が感じられた年でした。

～地活が地域のイベントに参加する理由～

地活では、オープン当初から「地域イベントへの出店」を実施してきました。なぜ地域イベントに出るのか？それは、イベントには様々な要素が含まれているからです。出店するにあたり利用者さん達と話し合い、考え、利用者さんが主体的に活動する機会となります。イベントの当日には、仲間やボランティアさん達と一緒にお店の運営をすることで余暇を楽しむ意味もあります。また、ボランティアさんを含め地域の方が来店したり、お店に関わることで地域との交流の機会ともなります。このような活動をしていくことで地域の方が障がいというものについて考え、気づく機会が生まれ、障がいについての普及啓発が地域へ広がっていくのです。

～地域イベントでみられる変化～

そうは言っても、今までは職員が活動を促したり、利用者さんと地域の方とのやり取りの間に職員が必要ということが多くありました。しかし、今年度の秋のイベントでは、例年とは少し違う様子が見られました。

利用者さんが地域の方に向け、地活のオリジナル商品について製作の過程やそのときのエピソードについて積極的に語る様子。日々のプログラムについて説明し、「是非、ボランティアに来てください！！」とボランティア募集をする様子。利用者さん同士、誘い合わせて他のお店にチラシを配りに行く様子。また、地域の方が利用者さんに自然に話しかけ、利用者さんもそれに応えるなど、職員が関わることなく利用者さんが地活の中心となって活動していました。

～変化の背景～

この変化には、3年半の積み重ねで培ったいくつかの背景があります。それは、地活が集う場所となり利用者さん同志の仲間意識が強まったこと。職員とイベントを考え・実施し、その経験を積み重ね、見通しがたつようになったこと。自信が芽生え、より主体的にイベントに参加すると共に、他者との関わりを積極的に持てるようになったことなどです。

このような経験や自信、人との関わりが利用者さんそれぞれの望む地域生活を実現するための、地道な、しかしとても大切なステップになるのです。

【地域活動支援センターとも 佐々木】

〈編集後記〉今号から「バリアフリー旅行記」が始まりました。障がいがある人も海外旅行を楽しめることを連載でお伝えます。これを読んで旅行にチャレンジする人が増えてくれると嬉しいです。【M】